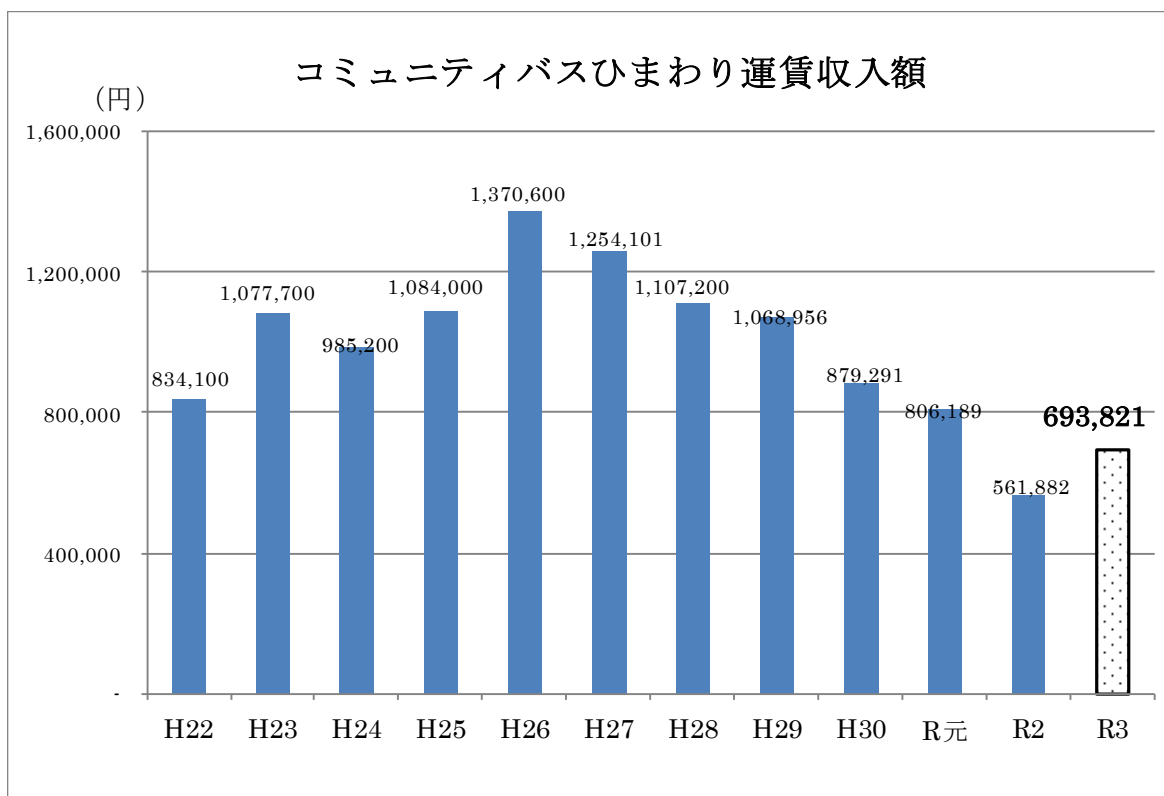
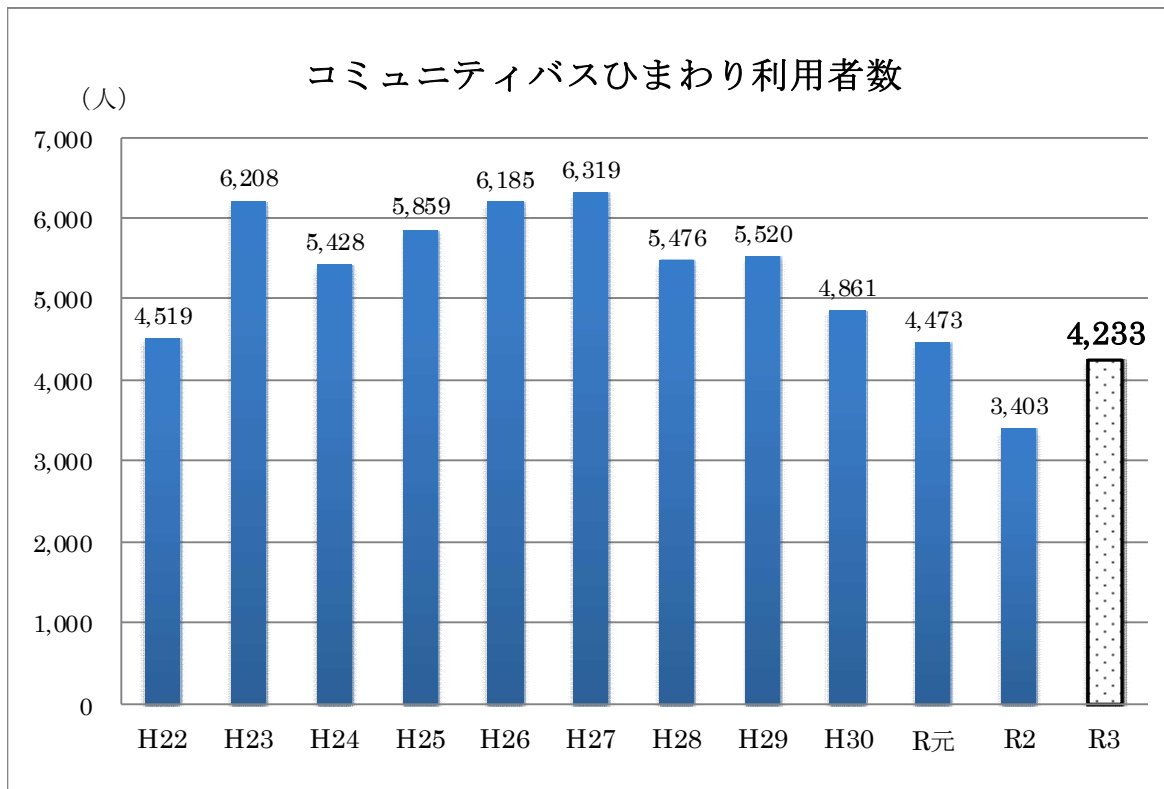
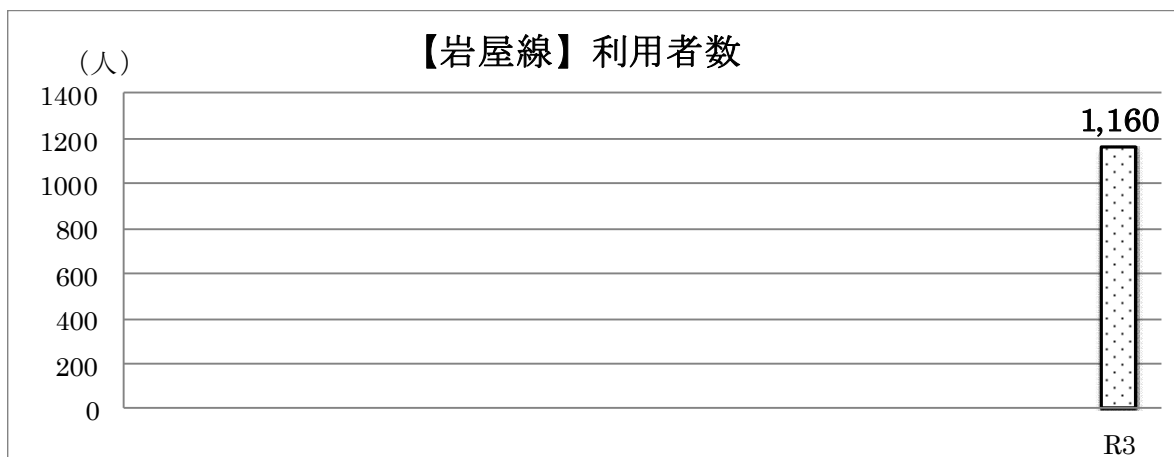
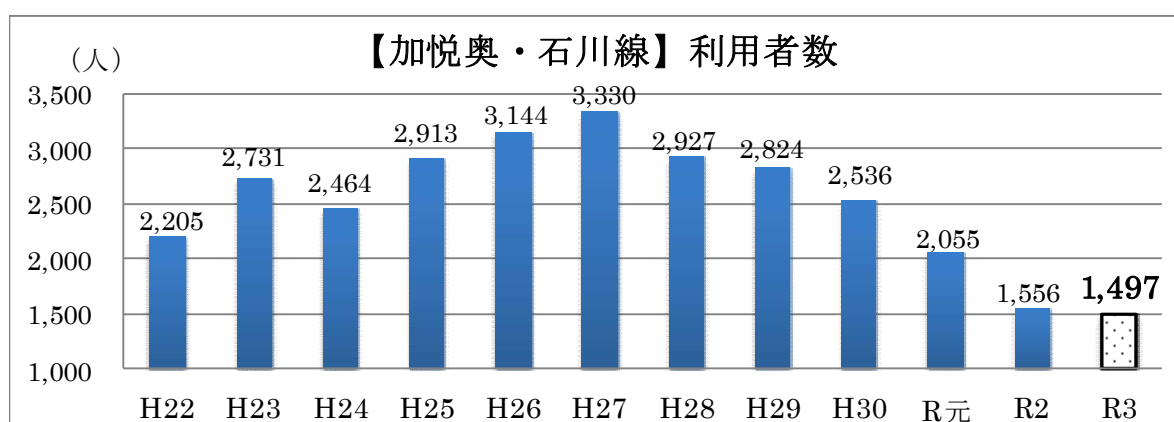
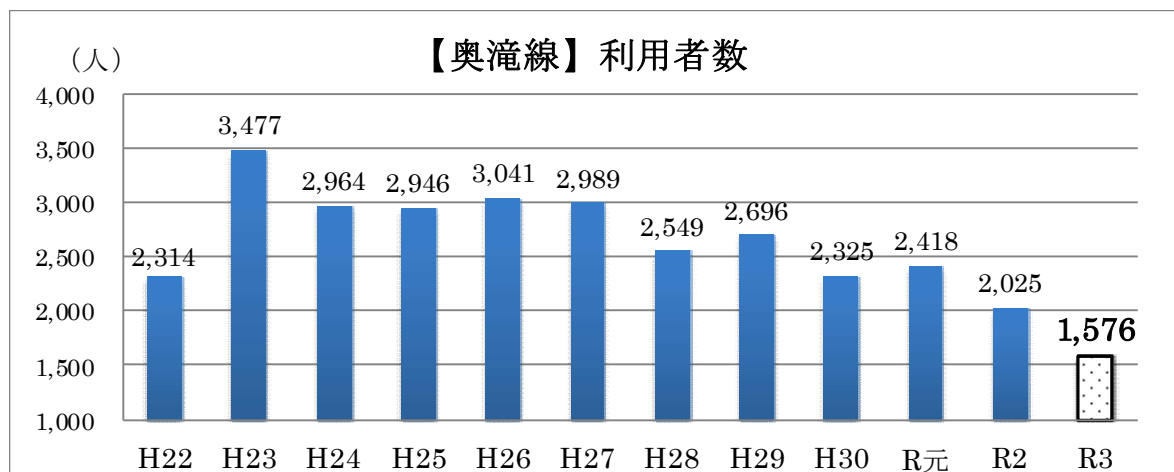


コミュニティバスひまわり運行実績および事業評価について

(1) コミュニティバスひまわり令和3年度（R2.10月～R3.9月）実績





(2) 乗降調査およびアンケート調査

- 調査日 令和3年11月15日(月)～11月20日(土)
- 調査便 奥滝線・岩屋線、加悦奥・石川線の第1便から第4便(全便)
- 対象者 のべ77名(うち重複回答者30名)
- 結果概要

区分	質問項目	アンケート結果
利用者について	性別	女性が 92% (R2 実施時より 6%増)
	年代	80 歳以上が 70%、60 歳以上でみると 90% (R2 実施時：80 歳以上 54%、60 歳以上 93%)
外出について	目的地	【奥滝線】 ウイル、梅谷下、算所公民館下、 加悦地域公民館 【岩屋線】 ウイル、四辻 【加悦奥・石川線】 ウイル、算所公民館下、 加悦地域公民館、石川診療所
	利用目的	買い物が 38%、通院が 40% (R2：買い物 42%、通院 35%)
コミュニティバス ひまわりについて	利用頻度	週 1 回が 40%、週 2 回・月 1 回・月 2 回が 9% (R2：週 1 回が 21%、月 2 回が 28%)
	利用曜日	木 26%、火・金 20%、水・決まっていない 11% (R2：決まっていない 25%、金 24%、月水 18%)

(3) コミュニティバスひまわりに対する評価

対象期間における年間利用者数（3 路線合計）は 4,233 人、年間運輸収入は 693,821 円であった。

路線ごとの目標値と実績は次のとおり。

路線	目標値	実績	達成率
奥滝線	2,300 人	1,576 人	68.52%
加悦奥・石川線	1,500 人	1,497 人	99.80%
岩屋線	1,200 人	1,160 人	96.67%

奥滝線及び加悦奥・石川線については新型コロナウイルス感染症拡大前の年間利用実績を目標としていたが、奥滝線については大きく落ち込む結果となった。利用者および町営バス運転手からの聞き取りから、常連の利用者が高齢により外出が難しくなったことが要因と分析している。

一方で加悦奥・石川線は、概ね目標を達成することができ、この要因として運行日数の増加に加え、ルートを変更したことにより利便性が向上したものと分析している。

2 路線とも前年から運行日数を増加（利便性を向上）したというプラス要素と、新型コロナウイルス感染症による外出控えというマイナス要素が考えられるが、加悦奥・石川線の利用者数の実績値が大きく落ち込んでいないことからより詳細な分析は困難である。

令和 2 年 10 月 1 日に新設した岩屋線の利用者実績は 1,160 人であった。新設路線であるため前年比較ができず目標人数は沿線人口と運行便数から月 100 人と設定し、これに近い実績となった。評価が難しいところだが、対象期間の後期の利用者実績が月 100 人を割っており、引き続き注視する必要がある。

(4) 今後の対応方針

バス乗降調査や利用者への聞き取り調査など、利用者ニーズに即した路線の確立等により生産性の向上を図るとともに、バス停乗降場所への新設や移設、利用しやすいダイヤ設定を引き続き行うことで利用促進に努める。

以上